

関市公共交通活性化協議会

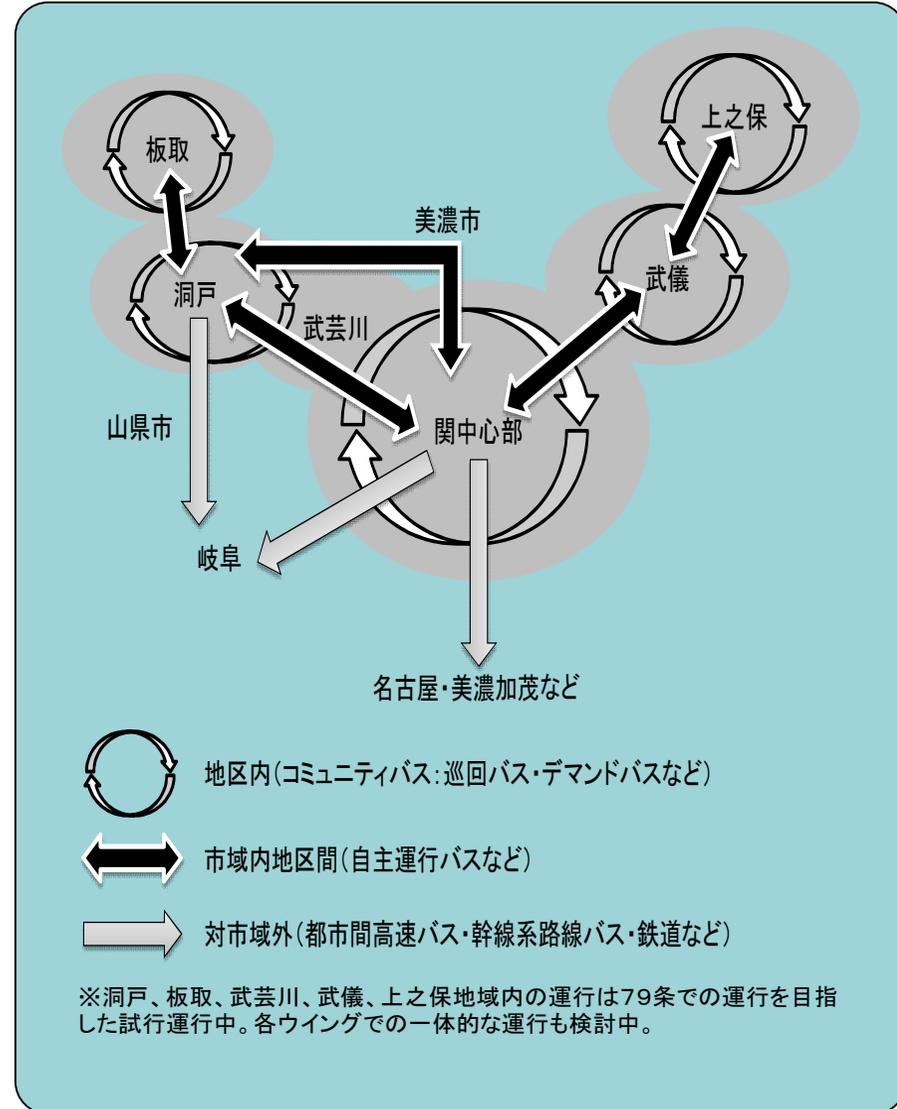
平成21年3月21日設置

フィーダー系統

平成26年6月23日NW計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

- 関市は岐阜県の中心部に位置し、平成17年2月に周辺5町村と市町村合併して、市域が102.51km²から472.33km²に拡大し、美濃市の全域と郡上市の南部地域を東の上之保地域と西の板取地域とでV字型で囲む変則的かつ広大な地域となっている。
- 関市の公共交通は、唯一の鉄道である長良川鉄道が市の中心部である関地域を南北に走り、中濃地域の機関的交通機関となっているものの、市域の大部分の公共交通サービスはバスが担っている。
- 関市第4次総合計画（平成20年3月策定）や関市都市計画マスタープラン（平成23年3月策定）において、鉄道や幹線路線バス、市内コミュニティバスなど多様な交通手段を組み合わせた公共交通ネットワークの構築や公共交通の利用を促進するための乗継機能を充実・強化することが位置づけられている。
- 地域公共交通総合連携計画（平成21年3月策定）によって、平成23年度までの3年間地域公共交通活性化・再生総合事業に取り組み、市内バス路線網の再編及び実証運行を行った。
- 地域公共交通活性化・再生総合事業により再編した路線を引き継ぎ、定量的評価や利用促進活動を実施する上で、利用しやすく身近な公共交通サービスの維持と確保に努める。
- 平成28年度以降には、公共交通網形成計画を策定予定であり、関中心部の路線見直しや、運賃改定、各ウイング（洞戸・板取地域の西ウイング、武儀・上之保地域の東ウイング）の運行団体の統合及び有償化を目指す。



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

平成27年度の計画において、平成26年から運行を検討し調整を行ってきた、関市デマンド乗合タクシーの試行運行を主要な事業と位置付け取組んだ。試行運行開始後は利用者や地域からの意見収集に努め、平成27年4月にはミーティングポイントの追加等の見直しを行った。1年間の試行運行の結果を受け、平成28年4月からの本格運行開始を目指す。

【定時定路線運行とデマンドタクシー導入後の比較】

路線 運行区域	わかかさ・下有知東線、下有知西線及び、 小瀬線 (H25.10-H26.9)	関市デマンド乗合タクシー 下有知、瀬尻・広見地区(H26.10-H27.9)
運行日数 運行便数	下有知東線・小瀬線:火・木・土運行 下有知東線:月・水・金運行	毎日運行
運行便数	1日5往復 (小瀬線は5便の片循環)	各地区1日最大10往復
乗降場所	下有知東線:18箇所 下有知西線:14箇所 小瀬線:20箇所	下有知地区:50箇所 瀬尻・広見地区:70箇所
運行車両	ポンチョ(28人乗り)	セダン型タクシー車両(各地区1台)
運賃	100円	300円
利用者数	下有知東線:1,908人 下有知西線:1,264人 小瀬線:1,365人	下有知地区:2,863人 瀬尻・広見地区:1,187人
1便あたりの 利用者数	下有知東線:2.5人 下有知西線:1.6人 小瀬線:2.0人	下有知地区:1.5人 瀬尻・広見地区:1.2人
市負担額	8,562千円	5,909千円
利用者一人 当たりの 負担額	下有知東線:1,584円 下有知西線:3,626円 小瀬線:1,971円	下有知地区:1,345円 瀬尻・広見地区:1,734円

平成27年9月には各地域での意見交換会(全3回)、利用者アンケートを行い、広く意見の収集に努め、路線評価基準を含めた総合的な検証を行い、必要なところは改善した上で平成28年4月の本格運行を目指すものとする。

関市デマンド乗合タクシー

予約式で乗り合い方式のみんなの乗り物

乗降所

電話で予約する
関市センター 電話番号
058-266-2107
受付時間/平日9:00~17:00

ご利用のご案内
①電話で予約する
関市センター 電話番号
058-266-2107
受付時間/平日9:00~17:00

②ご利用のご案内
ご予約した場所で乗車
お伝えいただくこと
乗車料/平日9:00~17:00
乗車料/平日9:00~17:00

③4300円を払い目的地で降りる
④乗車料のため乗車に移動

運行の概要
運行日
予約受付時間
乗車料(12/30~1/13を除く)
/平日9:00~17:00
乗車料(12/30~1/13を除く)
/平日9:00~17:00

関市デマンド乗合タクシー 運行エリア

関市では、利用しやすい公共交通サービスを提供するため、9/30でわかかさ下有知東線、下有知西線、小瀬線を休止し、10/1から下有知地区、瀬尻・広見地区と市街地を結ぶ「デマンド乗合タクシー」に試行運行を行います。

デマンド乗合タクシーとは、予約して利用していただく乗合のタクシーです。これまでの関シティバスと比べて、乗降できる場所はおおよそ2倍、1日の便数も10本程度となり便利になります。

運行時刻表

下り	上り	下り	上り
8:00 関市センター	8:40 瀬尻	8:00 関市センター	8:40 瀬尻
8:50 関市センター	9:30 瀬尻	8:50 関市センター	9:30 瀬尻
10:00 関市センター	10:40 瀬尻	10:00 関市センター	10:40 瀬尻
11:30 関市センター	12:10 瀬尻	11:30 関市センター	12:10 瀬尻
12:20 関市センター	13:00 瀬尻	12:20 関市センター	13:00 瀬尻
13:00 関市センター	13:40 瀬尻	13:00 関市センター	13:40 瀬尻
14:00 関市センター	14:40 瀬尻	14:00 関市センター	14:40 瀬尻
15:00 関市センター	15:40 瀬尻	15:00 関市センター	15:40 瀬尻
16:00 関市センター	16:40 瀬尻	16:00 関市センター	16:40 瀬尻
17:00 関市センター	17:40 瀬尻	17:00 関市センター	17:40 瀬尻

利用料金
(11名乗)
1,400円
乗車料(12/30~1/13を除く)
乗車料(12/30~1/13を除く)

※平成26年10月試行運行開始時に作成

《その他事業》

- 連携計画に基づく路線評価基準の見直し
- 夏休み小中学生無料乗車体験を実施。
(希望する児童・生徒に無料乗車券を配布し、使用されたチケット分の運賃を協議会にて補助)

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

○地域公共交通活性化・再生総合事業で行った評価方法及び基準値を一部見直し、平成27年度(H26.10~H27.9)のバス路線について、事業評価を行った。その方法としては、チェック1 路線のサービスと利用の乖離の程度(採算性)と公的資金の投入の効率性・妥当性による評価と、チェック2 採算性だけでは判断しきれない地域の置かれた状況を踏まえた評価の2段階で次のとおり行った。評価基準については平成27年3月に見直しを行っている。

チェック1: ①利用者数 ②単位あたり利用者数 ③利用者1人あたりの補助額 【新規追加項目】 ⑤収支率

チェック2: ④沿線人口に対する利用者数

○事業評価の全体結果は、A:サービスを維持、B:路線は維持、C:運行形態の見直し の3段階とした。

○上記評価以外にも、公共交通カバー率、サービス満足度、高齢者の外出回数、鉄道・バスの乗り継ぎ利用者数について評価の対象とする。

	路線名	①利用者数 (人/日)			②1便あたり利用者数 (人/便)			③利用者一人あたりの補助額(円/人)			④沿線人口に対する利用者数(人/日)			⑤収支率		全体評価
		基準値	H27	評価	基準値	H27	評価	基準値	H27	評価	基準値	H27	評価	基準値	H27	
市幹線	関板取線	138	144	達成↑	10	12.1	達成↑	1,000 円/人	753円/人	達成↑	1.0人/日 以上	0.75	未達成	15%	11.2%	A
	関上之保線	122	117	未達成↓	9	7.1	未達成↓		1,288円/人	未達成↓		1.02	達成		9.2%	B
関地域幹線系	買い物循環線	62	107	達成↑	5	7.1	達成↑	417円/人	達成↑	1.59		達成	14.8%	A		
	市街地病院循環線	50	29	未達成↑	4	2.4	未達成↑	1,186円/人	未達成↑	2.16		達成	6.9%	B		
関地域支線系	小金田線	50	35	未達成→	8	8.7	達成↓	以下	641円/人	達成↑		1.64	達成	10.2%	B	
	千疋線	43	21	未達成→	7	4.3	未達成↓	934円/人	達成↑	1.76		達成	8.1%	B		
関地域デマンド系	富野線	—	5	↓	2	1.3	未達成↓	—	3,900円/人	↓		1.20	達成	—	3.6%	B
	田原線	—	6	↑	3	2.1	未達成↑	—	2,380円/人	↓		0.69	未達成	—	3.6%	A
	迫間線	—	11	→	2	2.2	達成→	—	2,001円/人	↓		2.48	達成	—	3.6%	A
	向山線	—	16	↓	3	3.3	達成↓	—	1,887円/人	↓		2.00	達成	—	3.6%	A
デマンドタクシー(参考)	下有知地区	—	8	—	—	1.5	—	—	1,345円/人	—	—	0.51	未達成	15%	16.8%	—
	瀬尻・広見地区	—	4	—	—	1.2	—	—	1,734円/人	—	—	0.24	未達成		12.6%	—

※評価内の矢印は↑が昨年比で改善。↓が昨年比で悪化。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

- 平成21年度に市内バス路線の再編を行ってから6年が経過した。この間には地域住民や利用者の需要の把握に努め、評価結果の公表等の利用促進活動も行ってきた。各路線の事業評価としては、全体的に利用者数の大幅な変化はなく良好であるが、路線ごとに見ると利用者が増加し評価が上昇傾向の路線、下降傾向の路線がはっきりしてきている。平成27年3月には評価項目の追加と評価基準の見直しをし、各路線ごとの評価や課題も明確化されてきた。
- 中山間地域については、少子化の進展により利用者数が減少しつつある。一方、関地域の郊外部の住宅団地については高齢化が進んでいることから、バス停の新規設置の地域要望が増えつつある。
- 路線評価結果を踏まえ、地域説明会などを行い平成26年10月より関市デマンド乗合タクシーの試行運行を開始。

《課題解決に向けた対応策》

- 武芸川地域、洞戸地域、板取地域、武儀地域、上之保地域それぞれで79条運行を目指して試行運行中の路線を、関市のフィーダー系路線と位置づけ、平成28年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、運行団体の統合・有償化の検討を行っている。
- 毎年作成する関シティバスバスマップに広告枠を設け、運賃収入以外の自主財源の確保に努める。
(バス車内・車体への広告掲載は実施済。平成27年度実績：1,125千円)

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

- 平成26年10月に関市デマンド乗合タクシーの試行運行開始。
平成26年9月まで運行していたわかくさ・下有知東線、下有知西線及び小瀬線と比較し、利用者が10.7%減に対して、市の負担額は31.0%減となり導入の効果はあったと思われる。
- 試行運行中に、利用者や地元の声を聞き、平成27年4月にはミーティングポイント11箇所を新設し、利用者の利便性向上に努めた。
- 平成26年4月に整備した関シティターミナルのPRを行いパークアンドライド、キスアンドライドでの駐車場利用促進を行った。
利用実績は当初の想定を大きく超え、関市において新しい公共交通利用方法の啓発を行うことができた。